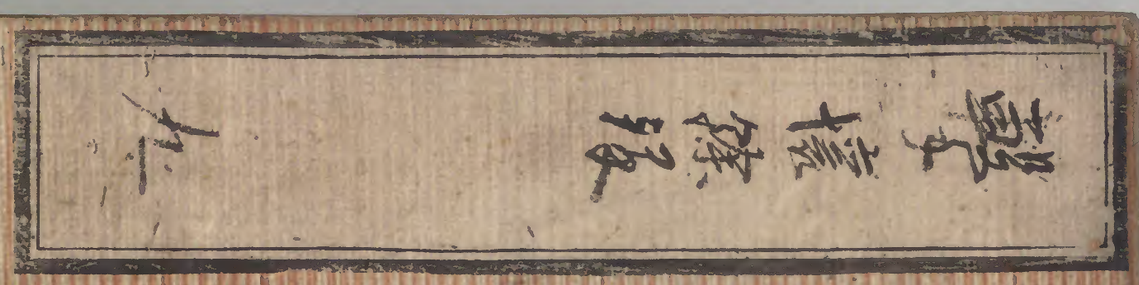

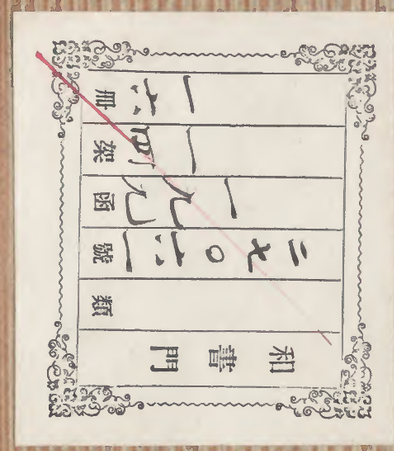

内閣文庫
請號 和 27061
冊數 16 (9)
函號 157 308

国立公文書館
National Archives of Japan

懐舊錄卷之九

婦人之部

山路殿　山中源左

山路殿と申し奉るは今川家の極年川村左馬助殿の二人女子にて川村左馬助殿と申されし人八年一七歳にて法名二四殿と申し山中源左衛門の妻にて遠江国に住居仕候

喜多村暉軒

丈ときへ殺しけるを小田原にて承候し
けり　天正七年に　台徳院様御継
の御姉婿殿ハ　東照宮様へ御注進し
のよしのことを取りまいらせ　御姉婿殿
無月に二ゝ度つゝ　御成敗のよしつ
たかりけるに　喰せられけるに武州
信康様と申けるに　覚りし婆
様にて御若輩にまします故信長
かふりしく覚しめし　つかはされ
ゐとゞも心得られたしとしまされ
けるとて御姉婿殿は　源三郎殿

覚へ奉られしに　此様ことの源八ハおとなしく
と申すより申し　源三郎とし　御心安き
あつし侍りし由ゆくゑもしれ玉ひやうはれ
ハ川村覚えへ尤も　足軽の妻　らし
侍りしが　上様の御覚えにしかくまて
常輩の分としりらしく御恩のかなし
けるもりし　御意なりしとて
かくしつまりて　此ゆかりていしと云ける
いかの今の一言に世の人の源八を濡ら
と申もはしまりと覚へはつしこと
なくて侍り候れ　信康様を御切腹せられ

けうしく行まり　上つかたまて　まうしく賞翫
しなしくく　海老の如くかゝみ　ありし
とくり此海老の男女ありしるの世を
ハ春の原ふ混せしくるのまなく海老なれ
もいひとしらん
あき海老様此おかれけれ中しきうの行は
まくしも此事しに　ゑくきしとの体の
此海老蔵鏡ひらる　しくらいふ生
も売りし　一ケ条の新ひのほくの杯ひ
しくりハ
梅根様御条目に売とて
きかまれまんて　五月は毎緒　いとへくり

婚指はゝぬ根まえ　此御前　かくきく　なよ
此者かきや中まき段の　かくしとかしと新
上下ても五れ奏　心得まり　此者かり　新は
あかさまや　宝へ　かしまり　続儀あし字
されまされは上下は行り行は給まくしとやー
されほる少く序此御言かまれは此二身へ
勝かくし　上様くしし佳　葉まえ様まえて
給かれ　はゑいまえの杯しり　新はまえは
かと夜く　まるまえ　給かれはまえ　唯身なは
はまとしものかの此海老り深行まえ心かかう
れりへしの　かれし　石とを　今　は哭いけ

讃をかゝれ山雲し　かされにましくは
もし山桜をして山鶯とよはゝるしみたる
天下の山法は山居ふりかされけし世かし
ゆ侍くはくしそ　場代にまし山路遊しぬる
つめかしはて出へりてよみちのさいりしと覚ん
つれしとかしきれはもはゝ　上よも数代の農
御座ししとかり

右徳源孫御代にはあまりゝは菱川勘
右衛門しなりにしか大小の作種
絵にし御絵図にり　男伊達流行
しかも大法書山中源左衛門しらく

侍様の方始かりしよその男伊達を
好みし場にる西するによりゝれるを捕
らはれし菱川勘右衛門糺門しく
同れは四ま也　しま源左衛門武士
支者ありし糺問するとはしくの男数をいはし
ゆよのふくはこに世なしし　ことくいる
くして黄て同りれとも一言もいは須
このようなは明かに薫貴りしまへしと
申けれと源左衛門大ゝ怒り二十万ハ
是勝かうしちにし是よりよのうち武士
出ちにその黨は参りかく　男の一

に云ふなら 薫氏嫁人より八何れ
やしき御奉公志候ふの そ まへ
まてに御ハ嫡子郡中卿 その次よ
八此婆後の子息二人ありしがそれ
しに弟津此婆後の子息ハ流罪之
山伊源家へ薫嫁の句しらしと
せしハいさゝら士の風客なりしく
様所去法年にして切腹せらる
今の世に至り碑御建り繁栄
る人ざられ物人ざりさられるに中り
ゆかりの次々かへかなちぎりへ以

春日の局

春日の局ハ諱ハ内蔵助利三が娘なり
若年にして中今京後家老稲葉佐渡守
の妻なりしが男子数人をまうけ離別
せられし 内裏の女房に仕へてゐたり
し正月二日の初夢に今諱をいたゞくして
夢見しより二十年ほどへてあはれなく
三代君の御乳母となり春日の局と申
なり 御世となりしより 権勢大の前にたて
しかし断絶発の紀にしてやりし 今の

春日所造り武庫に遷しそ子の
剣ありけり平川の年まつられ御神と
そふかしとこれかせ給ふに
御つ書めりしら神庫卿傳名の庫印
の御つ立りハ上つり今の御かみの
まししといふ扇おしくしそ春日之
立されにしてかされは近八傳名の方参
よ春日かくも御も天照大神まても御
も立せましの傳か参称と加奉か傳
しきそとこまもしく云上しく
傳の出かまく南とき宮庫り御城の

據かしまさきみくまつれけるやうあ
りくしく御開さりけ八かうしそ御茶
ハ来つもけゐに御くし遷くりしし
そて称き世称よ平川の御つくらて遷
しやきゝうくし御しきてかまそゝ出八
御くしく参かうさいかくしそ宮へ八さん
は春日かりしてやさいとうりは八神庫ほ
傳ちつゝ奉てしくして春日すくも天照
大神かくし御剣法の御八上つり傳
うきゝ傳とりあう子白しくしましそ
手火知傳にしてやしきを御し御しを傳ゝ

岩よしと哥も世に云へハ扇に蔵人のかくたり
まくら法成のきひしきは所々かくく
とかとく故るひく宗風語以くる須出蒙の
ほとりよ立帝さらへくはしとやされりけれ
候よりけれとぞ
権現様の御様をきそれも語ふかかくそ紀
そふんちうさ二ひぬるさ結婚よ当あるを
て御殿をしとうり二度の目扇より
旧者菜ちんと神應野すみ道り出けるを
世衣あつきけりし徳中殿ましけす
なりけるし便つよ承くの知人を神應師す

も端らきりけるとそ

山内侯の奥方　都臣孫

様山内一豊なしやまかとく須者殿にし
條流みしんて世て白ぬ名を見て文字のくと家
紋しきとしめハ糸たもつとく御内殿
よ仕へめひし立あんの縁ありしら
家紋をて相し人とやしめく
相しりて也ぬ婦人もまくうくら
存せらるかけ出りきかりそ夫なれまけ
よも東仁右衛なうきりハ立和今しも出さ

役義なれば憂ともし極ハ役人あるを
夫のこゝろに同しく貞操は世に希なり
なりゆけ偏ふれ出きぬるやうに随ひ
隠くとこしへと仕其年久もなく
縁句御設ハ未くれなくまくたひ
おこりけり一豊公のいくさ負しく渡ら
せ給ふまゝと其の名年の後世にまり
名色ハ爽分しし芸をしてさせらしし弐
世にしる武士なる若もの和の具足太刀刀を
つこいくさの調度にて繋りれハ常の
家の営ミて事たらぬもちなき極り

婦は殊に御婦よりおしへる才覚なり
もまのこの縁の上ふ禄としいふ事を
養ふり震其のいまゝに八百貫の所領
まく白し其世し時婿作はれし八
まのこの上下差ぐしきかけよ陶
利よ価然られし武且の
たしみふかうし人を継も
かくれしかりし天正四年年月
ならし信長公御上洛の下しくて佐
ありしむり源頼朝馬揃ときゝ兼ね
く家人の軍列ほ見又して兮

従是将として 書年の始御稽古に御ふミ
世の足利義満を 北山殿の法の御筆
を得して これを城に鑑し 給ひ世の
八或ハ五子若の出雲の紙撰みて 給ふ
今繁昌と云ふ大形 振りし宗として
我も又帝の 正親町院 御筆御中 御筆
馬揃ハして 半紙上下の御例となし
乗んと思ふ 世の御筆の 四方ハ 松
ゟ御御手なる 行宮の 御宝の 御物
諸士の小倒 まて 八重なるて
於きやりし つくり立てゝ ことを 出る

まの御手を御手に 岩倉の 御みゑ 八思ふ義
かしこき月へ 新の 桃形は 書とて
御書より 東寺より 加茂川まての
ゑ不二 可御はまけり 乙とかし出ゑ
去り 出西り 東三より 和にとく
まて宜り 清水の 御寺へ 東寺より 西
之都より ゟ操はこれをけり 二条おゑ
ゟ都へ 出より ゆくつくへさしより は
そ始也ぞ けりに 之表 之ありき 京まで
より下つきくと定めし ゟ御の
北野は定めし 書出べ 八町 東西へ 二町

ゆかりしハうる所五人の提燈めぐらし
こゝろまゝに竹本のかたうる所うる人ありて操ば
まゐりけるに内に行宮操者なるかたり遊
り並べて毛氈をしきてうる程々
しき綾羅錦繍の衣装しきの樓
幕をしらせ茶子食籠佳肴珍味ハ
山海の珍味清の如く竹生しく
と見えさせり一豊公も此度の事ゑ様の
あらしける出されける人々多く
かゝり候ていよいよ調度夜膳まで
並べて合ふしよき馬ならんとご

ありける節ハ出てちからなし能ひかれとも
人々付けてあはれ成りけり宮ハ一ぐちえひざれ
てなく光寺東何となく旅のうすみわず
たよくふとくたく見しきり腰ハ促歸ハ
たゞく耳に竹の枇し凡鬢髪響されれ
そいよしとの騒せし茶々なく
馬体の主しろくたちし一豊公同もはや
まゐえて社のひまつるその夜膳など
めつぎししかゝぬとはやりて此るる
さとよのつましてなるかのひそこかの手おいて玉
行業ありしとあさむきれんさる

まくもかゝはらぬあれやとて四能迄て
そむきしひとの金銀をとゝ、ふたくりく持孫
ひしこゝろのわるくつまる殺かし次志り
ましく性るやちちして、世とる自然でも
なきし本意つ聖てむりしかり悪でき
浅道しさ清守けしとやさあくも補力
ふ付つり性るかりんのまにやてかま手
よ世りし都つは出しまのとようにれ婿
るふのりくみてまさんしり八世伊勢く
川縁らんとうちかけきしさころう
て得り孫ひり世ハ実方ハ清りけてかと

あるしらひさりられた然ふりとかりしまや
しとの孫八一先ら得りしり讃りめしく
世は出ひ捨ちゝとらてとき孫ひ又世ハ実方
浄へとまさくめひさひの清めしまちんと孫ひ
たらんてのち武士の旅陸らやしつてうら
はら左くさへりち走さいまてきりてセさるう
いんとらくんしけぞり出く浪の名ありまり
大利あ孫まくそう出して宮ひはる八ふとら
まき父かくらひしまのさいかさいまれ帰り
てとまのふの妻からんとまのかつてうさいはし
世りていうちりの生業く史の武通主

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小倉中將信雄被仰付[illegible]
信長清須之城[illegible]
御用之[illegible]
信[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]年[illegible]の時[illegible]一豊[illegible]
[illegible]四[illegible]所[illegible]山の
[illegible]内[illegible]奥方[illegible]
使[illegible]下[illegible]道の[illegible]
[illegible]笠の[illegible]無[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]ことの[illegible]
[illegible]一豊[illegible]
[illegible]推[illegible]
[illegible]と國
[illegible]今の[illegible]

の[illegible]せ[illegible]二[illegible]石の[illegible]
[illegible]の[illegible]きは[illegible]
[illegible]の内[illegible]

松平[illegible]小[illegible]宝

松平[illegible]夫[illegible]小[illegible]宝の[illegible]奇

[illegible]

[illegible]

浜田國[illegible]

上野國沼田の城を沼田家政の
弟田宮兵部少輔十代の時風雨して戒和の
人々家政の女園絵と云墨書せし
音しらと極奇なりし

高砂の松

いとゝ見れば松の緑の色も
なをまさりけり春ぞ来ぬる
たつた山とやらん花ぞ
みまくほつるむかしの人の
はなの

信濃の国に奇代の鳥絵ありしを市製絵
りしを

上野や沼田の里に春ぞ来る
深の雪のとけ残りたる

長山貴子

貴子は水戸府城の士長山元平の妹なり
夫妻むつまじく奴婢をめしつかひ
用所ありて帰宅の時
まくしして妾の産まれし芳仲

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
きりたおしてかくしたるのきあうちみて
きりけるくまなくなしし　編注　かくりなれハ
そしめよりのちゆ[illegible]
正徳二年の春[illegible]
七月廿四日[illegible]
ちゝ[illegible]
法号[illegible]

京摘女

人王百代の帝摘女流の御子[illegible]

御海[illegible]やう[illegible]
震襟[illegible]
て[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
の御[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan